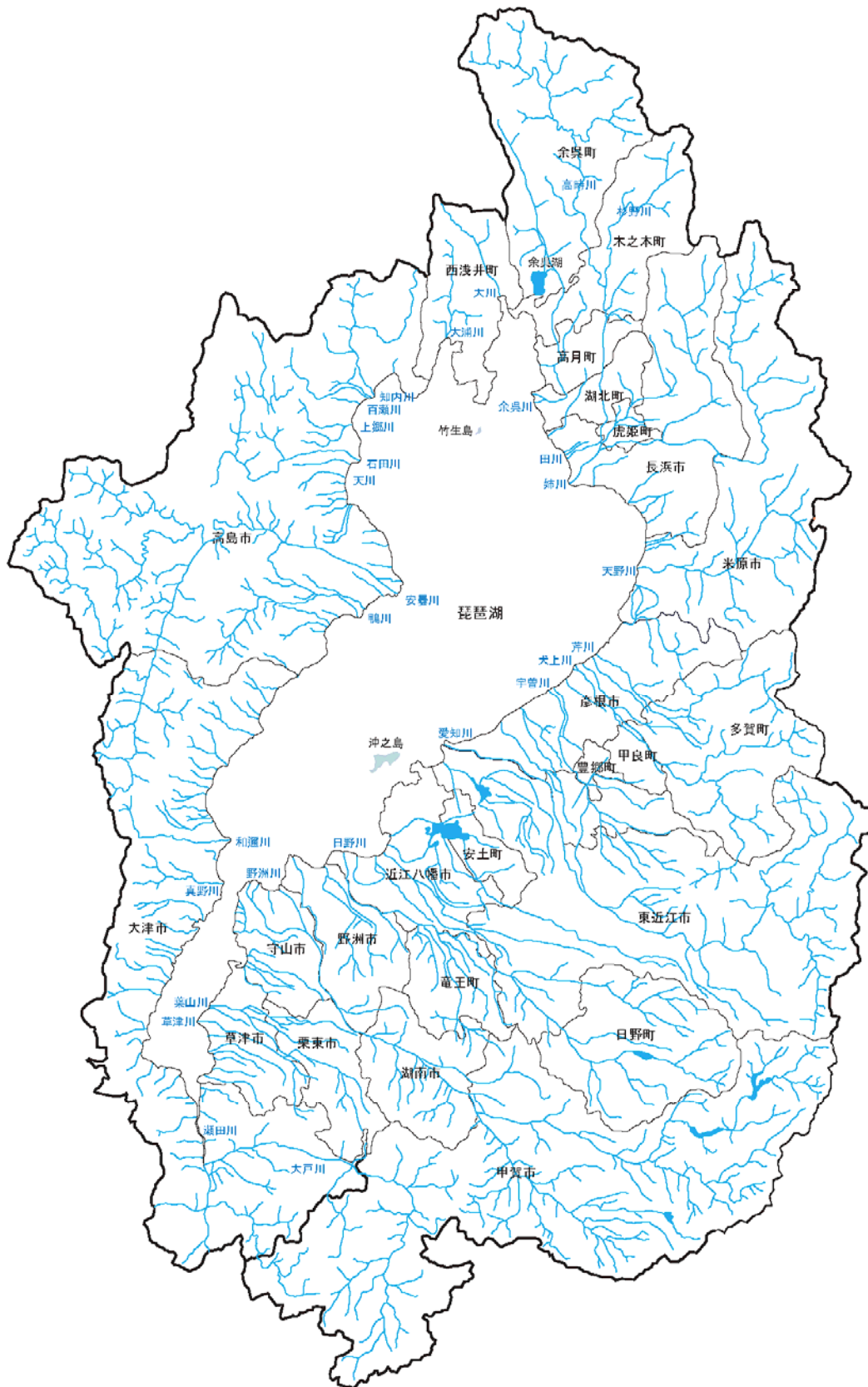


滋賀県の河川整備に関する方針

平成21年12月

滋 賀 県

滋賀の河川



1 淡海の川づくりの基本理念

琵琶湖は、その起源が400万年前までにさかのぼることのできる世界でも数少ない古代湖のひとつです。この長い歴史は豊かな生態系の発達と独自の進化をもたらし、今なお、50種を超える固有種を含む1,000種以上の動植物が生息・生育する自然生態系の宝庫です。琵琶湖は、140万人を上回る県民のほとんどがその集水域で生活する今日においても、なお一定の良好な状態が保たれている世界でも希有な湖です。それとともに、近畿1,400万人の生活や産業活動を支える貴重な水資源、水産資源、観光資源として、また人々に潤いや安らぎを与える心の支えとして幾多の恵みを与え続けている国家的財産です。

本県の川、淡海の川はこの多様でかけがえのない価値を有する母なる琵琶湖を支える動脈的な存在であるとともに、地域の生活や歴史・文化などとも密接に結ばれてきました。アユやビワマスが遡上し、産卵するなど、流入河川は多様な生物を育み、豊かな生物相を形成する上できわめて重要な役割を果たしています。

本県は東西交通の要となる地の利を生かした内陸工業県として盤石な基礎づくりと、偉大な自然である琵琶湖を守り、後生に引き継ぐ努力を重ねて、環境熱心県としての自負を持った施策の展開を進めています。これは、持続可能な節度ある発展によって、県民が安心して暮らせる快適な生活環境の創造や生きる喜びが実感できる福祉社会の実現など、個性と魅力が輝く湖国づくりを目指すものです。

滋賀県は湖国と呼ばれるように、湖や川と地域との関係がことのほか深いものがあり、人々は湖や川の恵み享受し、時には脅威にさらされながらも畏敬の念をもち、自然の循環やリズムにうまく寄り添いながら湖や川と共存し、独自の文化を培ってきました。

このような中であって、これからの河川整備や河川環境のあり方(淡海の川づくり)は、琵琶湖や淡海の川が滋賀県のみならず、近畿圏あるいは日本にとってもかけがえのない湖や川であることを念頭に置き、災害防止、利水、環境面等での多様かつ健全な機能が発揮され、すべての人々が多様な恵みを楽しむことができる川となるよう進め、また、健全な姿で次世代へ伝える必要があります。そのためには、豊かな自然、風土に培われた歴史・文化を深め、人々と川の絆をさらに太くするとともに、あわせて多様な生物が生息し、清流と緑豊かな河川環境を構築する川づくりを進め、生活の豊かさと自然環境の豊かさとが共存できる川づくりを進めていくことが必要です。

そこで「21世紀の淡海の川づくり」の基本理念を

**母なる琵琶湖やそれを支える川を健全な姿で次世代へ伝えるための
人と自然にやさしく、地域に愛される淡海の川づくり**

として、川づくりを進めます。

2 淡海の川の将来像（目標）

淡海の川づくりの基本理念を具体化させるため、次の5項目を目指すべき「淡海の川」の将来像（目標）とします。

- (1)治水 : 豊かで安定した「湖国」のために、安全・安心の基盤をつくる川
- (2)利水、水量・水質 : 清らかな流れで、健全な水循環系を構築する川
- (3)生物 : 豊かな自然を育み、多様な生物が生息する川
- (4)景観・水辺利用 : 淡海の原風景を復活し、「ふるさと」として誇れる川
- (5)歴史・文化 : 新たな文化の創造と水文化交流圏を形成する川

(1) 豊かで安定した「湖国」のために、安全・安心の基盤をつくる川

淡海の川は天井川が多く、かつては暴れ川として人々に恐れられていましたが、長年にわたって営々と続けられてきた先駆的な治水事業の進展、再度災害防止のための改良復旧、さらには、昭和47年(1972年)度から着手した琵琶湖総合開発計画に基づく事業の効果によって、飛躍的に社会基盤整備が進展し、安全で安心して生活が営める県土の形成が図られてきました。その反面、近年は大きな災害が少なくなってきたため、災害を経験した人が少なくなりつつあり、災害に対する危機感が薄れ、大災害に対する迅速・的確かつ機敏な対応能力の低下が懸念されるようになってきています。

一方、気象庁等の報告によれば、今後、気候変動にともない地球温暖化が進行し、台風の大規模化や豪雨の発生頻度の増加が予測されていることから、結果として河川管理施設の整備目標としてきた治水安全度が低下することが予見されます。さらに、淡海の川の氾濫原では土地利用が高度化され、都市域の拡大やさまざまな都市施設などの整備により人口・資産が集積し、一度災害が発生すれば、大被害をもたらすことが懸念されます。

滋賀県民が安心して豊かな生活を営み、社会経済的な発展を進めるため、洪水時の河川の水位・水量を把握するための水文観測の実施に努めるとともに、琵琶湖・瀬田川および琵琶湖流入河川等において、氾濫域の地形・土地利用の状況などに応じて目標とする安全水準(治水安全度)を定め、当該水準に対応する洪水(基本高水)を河道内で安全に流下させる整備を計画的に実施していきます。また、気候変動の影響や財政状況の悪化により、整備途上の施設水準を超える洪水や整備後の超過洪水の発生も現実的なものと考え、「どのような洪水にあっても人命を守る」ことを最優先に、氾濫しても被害を最小限にすることが県政の喫緊の課題となっています。そのため、洪水予報の実施や洪水ハザードマップの作成支援等の避難支援、氾濫原での安全な土地利用や住まい方の工夫、地域防災力の強化等の氾濫原管理に合わせて、河川管理施設の(氾濫を考慮した)構造の工夫なども総合的に実施していく必要があります。

このように、河川管理者は河川管理施設の安全水準(治水安全度)を向上させ、県民の社会経済の発展に寄与することとあわせて、氾濫原での減災対策としても重要な役割を担っていることを意識しながら、豊かで安定した「湖国」の風土を支える淡海の川づくりを目指します。

(2) 清らかな流れで、健全な水循環系を構築する川

淡海の川は、かんがい用水や水道用水などに広く利用されています。また、扇状地河川では多数の天井川を形成し、流水が伏流して水無し川となることが多く、川遊びや生物の

移動など、河川としての環境機能や利水機能が維持できる水量を常に確保することが困難な場合が多くあります。川に流水が見られないということは、利用や景観面からも心地よい水辺環境とはいえません。「あるべきものが、あるべき場所にある」という状態をつくる必要があります。

また、社会的には便利で物資の豊かな生活が大量消費、廃棄型の社会経済システムを進展させたため、琵琶湖や河川が有する自浄能力を超える産業排水や生活排水などが河川を通じて琵琶湖に流れ込んでいます。琵琶湖の水質は、下水道整備等の点源対策の進捗によって一定の改善が図られてきましたが、淡水赤潮やアオコの発生、CODの暫増傾向など予断を許さない状況にあり、特に河川を通じて流入する面源からの汚濁負荷削減を進める必要があります。

一方、気象庁等の報告によれば、今後、気候変動にともない地球温暖化が進行し、降水量の年変動の増大や降雪量の減少が予測されており、渇水頻度の増加や融雪の早期化や平常時流量の減少が予見されます。

そこで、河川の水量・水質の一体的管理について適正な水循環系が確立できるよう降水量や河川の水位・水量・水質等の把握に努め、総合的な施策の展開を図ることを基本に、節水型社会システムの構築と合理的な水利用のための対策検討、河川への汚水流出やゴミ対策、河川の自浄機能の保全と向上のための対策、常に川としてふさわしい水量を河口から水源まで確保するための対策、湧水保全のための地下水対策、水質事故の早期発見および未然防止対策などを進めるとともに、琵琶湖への流入汚濁の削減対策の展開を図ることにより、山と里・都市、そして琵琶湖を結ぶ清らかな流れを支え、健全な水循環系を構築する川づくりを目指します。

(3) 豊かな自然を育み、多様な生物が生息する川

滋賀県は、琵琶湖という広大な水域や内湖を有し、それに連なる無数の流入河川とあいまって、生物が産卵から発育など段階に応じた変化に富む環境が存在し、琵琶湖固有の生物を含む多種多様な生物が生息しています。また、県内を流れる川の多くは、かつて砂礫河原が広がり、多様な水際が形成され、流れには瀬・淵がみられました。多様な水際や瀬・淵は様々な生物の生息、生育、繁殖の場所として、また固有の水辺空間として重要な区域です。

一方、人口の増加による都市化の進展、内陸工業の発展、生活様式や営農形態の変化などによって身近な自然が少なくなり、水陸移行帯や氾濫原等のビオトープの量的減少、質的劣化、分断による孤立化が進行しています。また、近年、急速に進む流域開発やそれに伴う水資源開発や河川改修、治山事業の進展等により、各河川の流況や土砂動態が変わり、琵琶湖や河川環境は大きく変化してきました。

特に、これまでの河川整備は、効率的に治水安全度の向上を図るため、画一的な河道整備を行うことが望まれてきました。しかしながら、河道の掘削や拡幅は、流下能力の向上には寄与する一方で、流況の変化や土砂供給量の減少とあいまって、川の営力を低下させ、淡海の川に特徴的であった砂礫河原や瀬・淵を減少させています。また、河床掘削によって琵琶湖流入部では湖水位の影響から堆積傾向が強まり、琵琶湖への土砂供給量が減少していることも指摘されています。さらに、護岸整備によって多様な水際を減少させ、河岸からの緩やかな水陸移行帯を消失させている面もあります。

このため、淡海の川づくりにあたっては、琵琶湖を世界の湖沼保全のモデルとなるよう

に、より積極的な生態系保全への取り組みとして、豊かで多様な自然環境と人間とが共生する川づくりを進めるとともに、各種活動の支援などにも取り組み、世界に誇れる琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐ役割を果たす必要があります。

そこで、地域住民の理解と積極的な参加を得て、治水・利水機能との均衡を図りつつ、豊かな固有の生態系を有する琵琶湖とそれにつながる河川の連続性、河畔林や周辺の多様で豊かな自然空間との一体性に配慮し、湖辺生態系の量的確保と質的向上とともに、湖辺域と山地森林を結ぶビオトープネットワークを形成する骨格としての河川環境の保全と創出を図り、多様な生物の生息・生育環境の確保に努め、豊かな生態系を有する自然と人間とが共生でき、水と緑豊かな自然環境の恵沢の享受と継承ができる川づくりを目指します。

また、今後新たに事業展開する河川については、流域の特性に応じた適切な治水安全度の確保を目指すとともに、かつて二次的自然状態（里川的自然）の河川環境が有していた機能を保全・再生することを目指し、人と自然の営みにより、それぞれの川が本来有すべき川相が形成・維持されるとともに、上下流の連続性が確保される河道計画を立案するよう努めます。

(4) 淡海の原風景を復活し、「ふるさと」として誇れる川

湖国では、子供達が他府県と比べて水に親しむ機会が多く、また、子供達の川や水、生物とのふれあいを出発点とした環境教育も大変進んでいます。一方、大人にとって川は、のびのびとさまざまなレクリエーションを楽しみ、余暇時間を有意義に過ごせる場となっています。また、河川には砂礫河原や瀬・淵、琵琶湖や内湖にはヨシ帯が見られ、淡海の美しい固有景観を形成しています。

今後は、淡海の川においても益々自由時間の増大、多様化する欲求や価値観、高齢化の進展などに伴い、人々の年齢に応じた生きがいの場を提供することが求められており、日常生活にやすらぎとうるおいをもたらす空間、あるいは親と子や家族の絆を強める空間などとしての役割を果たすことが重要となってきています。さらには、身近に多様な自然や歴史・文化に恵まれている滋賀県民は、生涯学習に対する意欲も高く、欲求も多様化してきています。

そこで、自然に恵まれ、のどかな風景の中を流れる河川と沿川一帯の自然や歴史・文化遺産等を活用して、自然・歴史体験を積むことによって知識や知恵を深め、社会の変化にも的確に順応し、環境にも目を向けられ、心豊かでたくましく元気な人を育む場や生きた教育のできる場、同時に多様な価値観をもつ要求にも応じられ、暮らしを豊かにできる場などを提供する川づくりを目指します。

また、人々にとって淡海の川の風景は、人生の様々な思い出をつくる舞台であり、思い出を詰めた玉手箱です。今後もヨシ帯や家並みなど、まわりの自然やまちの景観ととけあい、水辺に淡海らしい原風景を保全・復元、または創造して、美しくて心のやすらぐ「ふるさと」として誇れる川づくりを目指します。

(5) 新たな文化の創造と水文化交流圏を形成する川

淡海の川辺には、古代から連綿と続いた生活の跡をとどめる遺跡、舟運の名残りである常夜燈、川や水の恵みを伝承した雨乞祈願のための踊り、先祖を敬う精霊流し、各家の前の川や水路に存在する水汲みや洗い場としての役割を持ち、生活と水との密接な係わりの跡である「カワト」、水路に流れを保つ「常水」ということば、カントリーヤナなどを使っ

た河川漁業とニゴロブナの「フナずし」やビワマスの「マスめし」といった食文化など、さまざまな歴史・文化が息づき今に伝えられています。

さらに、県内には江戸時代に掘られた西野水道や、明治時代に建造された旧東海道の大砂川隧道、草津川のオランダ堰堤や天神川の鎧堰堤といった砂防堰堤、狼川の旧狼川トンネル、瀬田川の旧南郷洗堰など土木に係わる歴史遺産も保存されています³⁾。また、河川や琵琶湖との深いつながりをもって生活してきた滋賀県民は、自らの手で川守の役目を担ってきましたが、治水事業の進展や河川・水路整備が進んだこと、あるいは物の豊かさや利便性を追求した社会の趨勢の中で、ともすれば河川の存在感が薄れた時期もありました。そのため、河川や琵琶湖とのつながりが薄れつつありましたが、環境保全意識の高まりによって、住民による自主的な河川愛護運動が少しずつ芽生え、進展している地区もみられるようになり、それらの住民活動を支援する行政の取り組みも増えつつあります。しかし、住民が広域的に連携し交流を深める活動にまでは発展していないのが現状です。

一方、琵琶湖に流入する河川は、その河川の上下流に位置する集落間のみではなく、琵琶湖を介して下流淀川とも水の源として深い関係があります。特に、琵琶湖は上下流双方に大きな影響を及ぼす存在であり、かつては瀬田川洗堰（南郷洗堰）を介して長く対立する時代もありましたが、琵琶湖総合開発計画による事業の推進によって、新たな深い関係が生まれ、さらなる太くて強い有機的な地域間連携の発展が望まれています。

地域に伝わる川や水にまつわる歴史・文化を継承する水辺の整備を図るとともに、地域住民の参加を得て人々や地域と川との係わり合いをなお一層深められる場、個性のある地域文化を引き出し育てる場、地域の文化的魅力を新たに生み出せる場となる川づくりを目指します。

また、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、現在の地域社会が抱えているさまざまな危機管理の一部を、地域社会の中でも負担していくという意識を改めて掘り起こすことによって、河川管理を行政と住民とが一体となって担えるような、住民がかつて抱いていた共同体意識あるいは川守意識の強化・復活など、自立と連帯による時代に順応した新たな水文化の創造に向けた川づくりを目指します。

さらには、多くの地域が一同に集まる水辺での催しなどを通じて、川や水にまつわる地域文化交流の輪を広げ、感動と共感を持って文化を共有するなど、地域と地域が相互の水文化に関し理解と認識を深め、行政単位の枠を越えた地域間のみならず地球社会での交流・連携を通じて、広く結ばれた水文化交流圏の形成に役立つ川づくりを目指します。

) 滋賀県の近代化遺産 - 滋賀県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書 - 、
平成12年3月、滋賀県教育委員会

3 洪水防御計画

(1) 洪水防御の長期的な整備目標(基本高水)の設定(長期的な河川の目標安全水準) 長期的な視点に立ち、河川整備の目標とする河川の安全水準(計画規模)を定めます。

本県の河川はすべて一級水系であるため、国が定める淀川・木曾川・北川の各水系河川整備基本方針と整合を図ります。

滋賀県における河川の目標安全水準(計画規模)は、我が国の一級河川(指定区間)や二級河川の一般的な安全水準を考慮し、10年に1回から100年に1回程度の降雨により想定される洪水とします。

氾濫原の地形や土地利用、被災履歴などから改修が必要と判断される河川(要改修河川)について、河川の大きさ(流域面積)、想定氾濫区域内の人口や面積、資産といった指標を総合的に判断して、河川ごとに目標安全水準(計画規模)を設定します。

表3-1 流域全体に対する指標値と計画規模

計画規模	流域面積 (km ²)	計画流量 (m ³ /s)
10～30年	5未満	100未満
50年	5以上100未満	100以上2,000未満
100年	100以上	2,000以上

表3-2 想定氾濫区域内の指標値と計画規模

計画規模	人口 (千人)	氾濫面積 (km ²)	市街化面積 (ha)	資産額 (億円)
10～30年	1未満	1未満	5未満	100未満
50年	1以上10未満	1以上20未満	5以上300未満	100以上2,000未満
100年	10以上	20以上	300以上	2,000以上

計画規模	生産額 (億円)	人口密度 (人/ha)	資産密度 (百万円/ha)	生産密度 (百万円/ha)
10～30年	50未満	5未満	20未満	5未満
50年	50以上1,000未満	5以上50未満	20以上500未満	5以上100未満
100年	1000以上	50以上	500以上	100以上

4 中長期整備実施河川の検討

社会経済情勢から滋賀県の河川改修関係事業費が大きく縮小する中、依然として県内の多くの河川の治水安全度が低い状況にあり、県土全体の治水安全度の均衡に配慮しつつ、効率的・効果的に事業効果を発現させるため、計画的に整備に取り組む河川を選定しました。

(1) 河川を選定（Aランク～Dランク）

滋賀県では、流域面積が50km²以上の河川については戦後最大洪水を、流域面積が50km²未満の河川については10年に1回程度の降雨により想定される洪水を当面の整備目標とします。

また、想定される被害の大きさを考慮して、計画的に河川整備を実施すべき河川の優先度(Aランク～Dランク)を定めます。要改修河川(約240河川)について、現況(平成21年(2008年))の整備状態で(流域面積が50km²以上の河川は戦後最大洪水，流域面積が50km²未満の河川については10年に1回程度の降雨により想定される洪水を想定外力として)被害想定を行い、想定される被害の状況により以下の4ランクに分類します。

- Aランク（整備実施河川）：緊急性の観点から河川改修を行うことが望ましい河川
- Bランク（次期整備河川）：緊急性の観点からはAランクの次に河川改修を行うことが望ましい河川
- Cランク（整備保留河川）：改修済みではないが、近年浸水実績等も少なく、今後多大な被害の恐れが少ない河川
- Dランク（評価対象外河川）：改修済み河川や地形的要素等で評価対象外となる河川

(2) 当面の間、計画的な河川整備の及ばない範囲において、人的被害を回避するため、堤防の質的強化や氾濫流制御を図る河川（Tランク河川）

AランクもしくはBランク河川の計画的に整備を実施する区間においても整備完了までに相当の時間を要することや、当面の間（概ね20年間）に整備が及ばない範囲が存在することから、当面の間、計画的な河川整備の及ばない範囲で、河川の形態や背後地の土地利用状況から氾濫時に壊滅的な被害が予見される区間に対して、優先的に被害を軽減させるための局所的な堤防強化対策を講じることとします。

5 河川整備計画策定の考え方

(1) 当面(20年間)、計画的な整備を検討・実施する河川に関する記述

河川整備計画においては、中長期整備実施河川の検討でAランクに選定された河川（もしくはBランクに選定された事業実施中の河川）について、時々々の財政状況等を考慮しつつ、整備計画期間内(20年間)に整備を実施する区間(整備実施区間)、整備の実施に向けた調査・検討を行う区間(調査検討区間)および整備の実施時期を検討する区間（整備時期検討区間）を示します。

ただし、流域面積が50km²以上のAランク河川においても、下流の整備状況等が制約となり、戦後最大洪水を安全に流下させることができない場合もあります。その場合は、下流の整備の進捗に合わせて、下流で達成された安全水準(計画規模)を超えない範囲で改修を行います（例えば、杣川、大戸川、安曇川など）。

また、河川整備を実施する場合には、目標とする治水安全度を確保するだけでなく、原則として、地域の風土にあわせた河川環境を保全・再生する河道計画(多自然川づくり)とします。

霞堤や越流堤が機能しなくなることにより、氾濫時のリスクが周辺地域に転嫁され、壊滅的な被害を人為的に誘発することになります。したがって、氾濫時の減災機能が現存する霞堤や越流堤、水害防備林など、河川区域の氾濫流制御施設を保全することを原則とします。

(2) 当面(20年間)、計画的な整備がおよばない河川・区間に関する記述

整備計画期間内(20年間)に計画的な河川整備のおよばない河川において、氾濫時に人的被害が予見される区間(Tランク河川)においては、人的被害を回避するため、堤防の質的強化や氾濫流制御の整備を図ることを記述します(河川名のみ記述)。

(3) 維持管理について

河川管理施設の維持管理を着実にを行い、地域の風土にあった河川環境を保全し、河川が本来持つ機能を確保するための方策を記述します。

河川の維持の目的

県内の一級河川において、洪水による被害の軽減、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持および河川環境の保全がなされるように、行政と地域住民が連携を図りながら、各河川の特性を踏まえた維持管理を行います。

その際、治水、利水、環境の面から河川を維持していくことで、洪水に対する安全性を確保し、地域住民が安心やうるおいを感じ続けることができるように配慮します。ま

た、生物の生息・生育環境や良好な景観を保全しながら、自然を楽しむことができる河川空間の利用を促進していきます。

河川の維持の種類および施工場所

県内の河川を適切に管理していくため、地域住民との協働のもと、河川における取排水、流域の汚濁負荷や河川水量の変化に伴う水質変化、生物の生息・生育環境等の環境の実態把握に努め、必要に応じた対策を講じます。

河川の維持管理の中で、洪水による被害の防止を目的として実施する樹木等の伐採、堆積土砂の除去、護岸補修等の対策については、特に、地域住民の生命と財産を守る観点から緊急性の高い箇所から、順次計画的に実施します。なお、実施にあたっては、河川環境や個々の河川の特性に配慮した計画とします。

また、豊かな自然環境や景観、憩いやふれあいの場としての河川空間など良好な河川環境を保全し、次世代へと引き継いでいくためには、地域住民と協働して河川の維持管理を行うことが重要です。このため、草刈りやゴミの除去、川ざらえ、河畔林の伐採・管理など地域住民等が主体的に行う活動に対して、積極的に支援します。

6 整備実施河川および次期整備河川の計画規模

緊急性の観点から河川改修を行うことが望ましい河川（整備実施河川：Aランク河川）およびAランクの次に河川改修を行うことが望ましい河川（次期整備河川：Bランク河川）の目標安全水準は表6-2のとおりです。ここで、基本（長期）計画、戦後最大洪水および河川整備計画における安全水準とはそれぞれ次のとおりです。

基本（長期）計画：将来にわたって目指すべき安全水準

戦 後 最 大 洪 水：中長期的に、達成すべき当面の安全水準（流域面積が50km²以上の河川）

河 川 整 備 計 画：河川整備計画期間内（20年間）において目標とする安全水準

表6-1 河川の基本（長期）計画規模について

河川名	計画規模	川の大きさ		氾濫想定区域内の指標値と計画規模							
		流域面積 km ²	計画流量 m ³ /s	人口 千人	氾濫面積 km ²	市街地面積 ha	資産額 億円	生産額 億円	人口密度 人/ha	資産密度 百万円/ha	生産密度 百万円/ha
	100年	100以上	2,000以上	10以上	20以上	300以上	2,000以上	1,000以上	50以上	500以上	100以上
	50年	5以上100未満	100以上2,000未満	1以上10未満	1以上20未満	5以上300未満	100以上2,000未満	50以上1,000未満	5以上50未満	20以上500未満	5以上100未満
	30～10年	5未満	100未満	1未満	1未満	5未満	100未満	50未満	5未満	20未満	5未満

主要な河川の流域の大きさと計画規模設定について

【流域面積】 100km ² 以上	【計画規模】 100年確率	野洲川、姉川・高時川、安曇川、日野川、愛知川、犬上川、大戸川 (次の河川は、流域面積が100km ² 以上ですが、氾濫区域内の状況から計画規模を50年確率とします。天野川、杣川)
5m ² 以上100km ² 未満	50年確率	長命寺川・蛇砂川・八日市新川、余呉川、石田川、鴨川・青井川・八田川、家棟川(童子川)、葉山川、真野川、長浜新川、矢倉川、百瀬川 山賀川(新守山川)、大宮川、金勝川、狼川、北川 (次の河川は、5km ² 以上100km ² 未満の流域面積ですが、氾濫区域内の状況から計画規模を100年確率とします。芹川、草津川) (次の河川は、5km ² 以上100km ² 未満の流域面積ですが、氾濫区域内の状況から計画規模を30年確率とします。大川)
5km ² 未満	30年確率	野瀬川 (次の河川は、5km ² 未満の流域面積ですが、氾濫区域内の状況から計画規模を100年確率とします。常世川・吾妻川) (次の河川は、5km ² 未満の流域面積ですが、氾濫区域内の状況から計画規模を50年確率とします。藤ノ木川、高梁川、家棟川(由良谷川)) (次の河川は、5km ² 未満の流域面積ですが、氾濫区域内の状況から計画規模を10年確率とします。不飲川)

従来、県では主に流域面積から計画規模を一次選定し、土地利用の状況(都市部や田園地帯)等から考察し、最終的に河川の計画規模を決定してまいりました。この考察の部分を想定氾濫区域内の人口、面積、資産等により指標化し50年・30年確率の区分と併せて明確化しました。これに、河川の形態(築堤河道、掘込河道)および本川支川の関係等に配慮し、河川の基本(長期)計画規模を決定します。

表6-2 目標安全水準

Aランク河川

管内	圏域	河川名	基本(長期)計画		戦後最大洪水	河川整備計画		備考
			安全水準 (年確率)	流量(m ³ /s)	流量(m ³ /s)	安全水準 (年確率)	流量(m ³ /s)	
大津	志賀・大津	藤ノ木川	50	45	-	10	検討中	流域面積<50km ²
		真野川	50	270	-	10	170	流域面積<50km ²
大津・甲賀	信楽・大津	大戸川	100	1,100	845 (S57台風10号)	10	550	下流河川の整備状況
甲賀・南部	甲賀・湖南	家棟川(由良谷川)	50	40	-	50	40	小規模な河川(施工性)
		落合川	検討中	検討中	-	検討中	検討中	流域面積<50km ²
		野洲川	100	4,500	2,763 (S28台風13号)	-	2,800	戦後最大洪水相当) 概ね30年確率
		北川	50	55	-	10	30	流域面積<50km ²
		金勝川	100	420	-	10	200	流域面積<50km ²
		葉山川	50	320	-	10	70	流域面積<50km ²
		山賀川(新守山川)	50	170	-	10	90	流域面積<50km ²
		狼川	50	検討中	-	10	検討中	流域面積<50km ²
		草津川	100	検討中	-	10	検討中	流域面積<50km ²
東近江	東近江	中ノ井川	検討中	検討中	-	10	検討中	流域面積<50km ²
		愛知川	100	3,100	2,181 (S34台風15号)	50	2,400	戦後最大洪水相当
		日野川	100	1,900	1,373 (S40台風24号)	50	1,700	戦後最大洪水相当
		蛇砂川	50	270	-	10	140	流域面積<50km ²
		八日市新川	50	260	-	10	160	流域面積<50km ²
湖東	湖東	大同川	検討中	検討中	-	検討中	検討中	流域面積<50km ²
		犬上川	100	1,500	1,225 (H2台風19号)	100	1,500	戦後最大洪水相当
		野瀬川	30	検討中	-	10	検討中	流域面積<50km ²
		不飲川	30	40	-	10	30	流域面積<50km ²
		矢倉川	50	270	-	10	110	流域面積<50km ²
		芹川	100	1,040	539 (H2台風19号)	-	540	戦後最大洪水相当) 概ね30年確率
長浜・木之本	湖北	平田川	検討中	検討中	-	検討中	検討中	流域面積<50km ²
		長浜新川	50	320	-	10	60	流域面積<50km ²
		姉川・高時川	100	2,800	1,382 (S34台風15号)	-	1,400	戦後最大洪水相当) 概ね40年確率
		天野川	50	800	793 (S47台風20号)	検討中	検討中	
高島	湖西	余呉川	50	600	273 (S34.8洪水)	30	330	戦後最大洪水相当
		鴨川・青井川・八田川	50	725/110/110	-	10	320/60/60	流域面積<50km ²
高島	湖西	安曇川	100	3,200	2,964 (S28台風13号)	30	2,100	下流河川の整備状況

)戦後最大実績洪水(P33参照)

Bランク河川

管内	圏域	河川名	基本(長期)計画		戦後最大洪水	河川整備計画		備考
			安全水準 (年確率)	流量(m ³ /s)	流量(m ³ /s)	安全水準 (年確率)	流量(m ³ /s)	
大津	志賀・大津	常世川・吾妻川	100	60	-	100	40	地下河川(特殊性)
		大宮川	50	160	-	50	140	小規模な河川(施工性)
大津・甲賀	信楽・大津	高橋川	50	50	-	50	45	小規模な河川(施工性)
甲賀・南部	甲賀・湖南	杣川	50	1,500	1,269 (S40台風24号)	10	410	下流河川の整備状況
		家棟川(童子川)	50	400	-	10	60	流域面積<50km ²
東近江	東近江	長命寺川	50	340	-	50	340	大規模な横断構造物(施工性・計画性)
		三明川	10	12	-	10	12	流域面積<50km ²
長浜・木之本	湖北	大川	30	300	-	10	200	流域面積<50km ²
高島	湖西	石田川	50	690	203 (S40台風24号)	10	300	戦後最大洪水相当
		百瀬川	50	310	-	10	120	流域面積<50km ²

河川整備計画の目標安全水準の設定にあたっては、以下を考慮します。

流域面積が50km²以上の河川については、

- 1) 戦後最大相当の洪水を河道内で安全に流下させることを当面の目標として計画的に河川整備を行います。

具体の河川：野洲川、愛知川、日野川、犬上川、芹川、姉川・高時川、余呉川、石田川

- 2) 戦後最大相当の洪水を河道内で安全に流下させることを当面の目標としますが、下流の整備状況に合わせ下流の安全水準を超えない範囲での段階施工による目標を設定して治水安全度の向上を図ります。

具体の河川：大戸川、安曇川、杣川

戦後最大相当の洪水は、原則的に“戦後最大実績洪水”とします。しかし、事業継続中の河川などで一定の事業効果が発現している河川や用地買収が進んでいる河川については、従来どおり“戦後最大確率洪水”として事業を継続していきます。

なお、戦後最大実績洪水とは、戦後最大降雨の実波形を用いた流出解析によって得られる流量であり、また、戦後最大確率洪水とは、戦後最大降雨量の年超過確率を推定し、1/10・1/30・1/50・1/100の確率規模のうちの直近上位を用いて計算された流量のことをいいます。

流域面積が50km²未満の河川については、

- 1) 10年に1回程度の降雨により想定される洪水を安全に流下させることを目標として河川整備を行います。

具体の河川：藤ノ木川、真野川、落合川、金勝川、葉山川、新守山川、狼川、草津川、中ノ井川、蛇砂川、八日市新川、野瀬川、不飲川、平田川、長浜新川、鴨川・青井川・八田川、家棟川(童子川)、大川、百瀬川、北川、矢倉川

- 2) 小規模で、計画川幅(河積)が比較的小さい河川については、施工性や河道の安定を考慮して基本(長期)計画による河川整備を行います。

具体の河川：家棟川(由良谷川)、大宮川、高橋川

- 3) 地下河川については、河川の特殊性・施工性を考慮して基本(長期)計画による河川整備を行います。

具体の河川：常世川・吾妻川

- 4) 大規模な横断構造物を設置する河川については、施工性・計画性を考慮して基本(長期)計画による河川整備を行います。

具体の河川：長命寺川

7 堤防の質的強化や氾濫流制御を図る河川（Tランク河川）

整備計画期間内(20年間)に計画的な河川整備がおよばない河川（区間）において、氾濫時の人的被害を回避するため、堤防の質的強化や氾濫流制御を図る河川（Tランク河川）は表7-1のとおりです。

表7-1 Tランク河川一覧

管内	圏域	河川名	管内	圏域	河川名		
大津	志賀・大津	吾妻川	東近江	東近江	東川		
		大宮川			愛知川		
		大堂川			惣四郎川		
		藤ノ木川			祖父川		
		真野川			日野川		
		家棟川（大津）			蛇砂川		
大津・甲賀	信楽・大津	際川			湖東	湖東	犬上川
		大戸川					宇曽川
		草津川	小野川				
		高橋川	芹川				
甲賀・南部	甲賀・湖南	狼川	長浜・木之本	湖北	早川		
		北川			矢倉川		
		草津川（再掲）			姉川		
		光善寺川			高時川		
		金勝川	草野川				
		十禅寺川	天野川				
		菖蒲谷川	田川				
		童子川	日光寺川				
		中ノ池川	政所川				
		葉山川	赤川				
		美濃郷川	大川				
		家棟川(野洲)	高時川（再掲）				
		山田川	余呉川				
		大砂川(吉永)	高島	湖西	安曇川		
		落合川			安曇川北流		
		高田砂川			鴨川		
		家棟川(甲西)			八田川		
		由良谷川			百瀬川		

本表は管内毎に五十音順にならべたもので優先順位を示すものではありません。今後、順次堤防点検を進め、調査・検討を踏まえて優先度を決め、対策を進めるものとします。
今後、データの蓄積に伴い、見直すことがあります。

圏 域	河川名	計画規模	河の大きさ		想定氾濫区域内の指標値と計画規模								河川形態	総合評価
			流域面積 km ²	計画流量 m ³ /s	人口 千人	氾濫面積 km ²	市街地面積 ha	資産額 億円	生産額 億円	人口密度 人/ha	資産密度 百万円/ha	生産密度 百万円/ha		
圏 域	河川名	100年	100以上	2,000以上	10以上	20以上	300以上	2,000以上	1,000以上	50以上	500以上	100以上		
		50年	5以上	100以上	1以上	1以上	5以上	100以上	50以上	5以上	20以上	5以上		
			100未満	2,000未満	10未満	20未満	300未満	2,000未満	1,000未満	50未満	500未満	100未満		
30年	5未満	100未満	1未満	1未満	5未満	100未満	50未満	5未満	20未満	5未満				
志賀・大津圏域	真野川	数値	6.9	290	5.3	1.8	80	331	100	29.5	184	55	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
	藤ノ木川	数値	1.6	40	2.8	0.5	50	175	52	56.8	351	105	築堤河川	50年
		評価	30年	30年	50年	30年	50年	50年	50年	100年	50年	100年		
	大宮川	数値	7.9	160	6.2	1.8	80	388	116	34.5	216	65	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
	常世川・吾妻川	数値	2.5	60	0.2	0.1	10	14	4	23.1	142	43	トンネル河川	100年
		評価	30年	30年	30年	30年	50年	30年	30年	50年	50年	50年		
信楽・大津圏域	高橋川	数値	1.9	50	2.6	0.3	20	162	48	86.7	541	160	築堤河川	50年
		評価	30年	30年	50年	30年	50年	50年	30年	100年	100年	100年		
	大戸川	数値	191.1	550	4.4	7.9	53	240	88	5.5	30	11	築堤河川	100年
		評価	100年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
甲賀・湖南圏域	野洲川	数値	387.0	4500	188.6	153.5	490	13,252	10,687	12.3	86	70	築堤河川	100年
		評価	100年	100年	100年	100年	100年	100年	100年	50年	50年	50年		
	家棟川 (由良谷川)	数値	5.1	70	0.4	0.6	10	57	2	6.6	95	3	築堤河川	50年
		評価	30年	30年	30年	30年	50年	30年	30年	50年	50年	30年		
	杣川	数値	121.9	1500	3.5	6.2	20	243	196	5.6	39	32	築堤河川	50年
		評価	100年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
	家棟川 (童子川)	数値	36.3	380	4.5	7.4	282	277	559	6.0	37	76	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
	山賀川 (新守山川)	数値	8.5	155	3.7	5.0	193	250	177	7.5	50	35	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
	葉山川	数値	23.4	320	1.3	1.0	40	96	73	13.2	96	73	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	50年	30年	50年	50年	50年	50年		
	草津川	数値	48.3	870	44.7	12.7	324	2,815	2,733	35.2	222	215	築堤河川	100年
		評価	50年	50年	100年	50年	100年	100年	100年	50年	50年	100年		
	北川	数値	20.5	55	6.5	4.4	0	0	0	14.8	0	0	築堤河川	50年
		評価	50年	30年	50年	50年	30年	30年	30年	50年	30年	30年		
	金勝川	数値	17.3	200	34.1	8.9	64	5438	157	10.3	65	63	築堤河川	100年
		評価	50年	50年	100年	50年	50年	100年	50年	50年	50年	50年		
	狼川	数値	6.2	150	0.9	2.6	113	55	48	3.4	21	18	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	30年	50年	50年	30年	30年	30年	50年	50年		

圏 域	河川名	計画規模	河の大きさ		想定氾濫区域内の指標値と計画規模								河川形態	総合評価
			流域面積 km ²	計画流量 m ³ /s	人口 千人	氾濫面積 km ²	市街地面積 ha	資産額 億円	生産額 億円	人口密度 人/ha	資産密度 百万円/ha	生産密度 百万円/ha		
			100年	100以上	2,000以上	10以上	20以上	300以上	2,000以上	1,000以上	50以上	500以上		
東近江圏域	愛知川	数値	245.1	3000	68.2	72.0	327	6,796	2,461	9.5	94	34	築堤河川	100年
		評価	100年	100年	100年	100年	100年	100年	100年	50年	50年	50年		
	長命寺川・蛇砂川 八日市新川 日野川	数値	55.1	340	40.9	58.6	286	0	1,105	7.0	0	19	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	100年	100年	50年	30年	100年	50年	30年	50年		
		数値	211.3	1900	26.0	34.3	104	2,931	1,105	7.6	85	32		
評価	100年	50年	100年	100年	50年	100年	100年	50年	50年	50年				
湖東圏域	不飲川	数値	3.1	30	2.6	7.3	730	261	123	3.6	36	17	築堤河川	30年
		評価	30年	30年	50年	50年	100年	50年	50年	30年	50年	50年		
	矢倉川	数値	15.5	270	5.5	6.1	146	566	122	9.1	93	20	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
	芹川	数値	64.3	770	25.2	11.3	1,130	3,780	40	22.3	3,346	35	築堤河川	100年
		評価	50年	50年	100年	50年	100年	100年	30年	50年	100年	50年		
	犬上川	数値	104.3	1600	31.4	19.9	475	2,884	1,135	15.8	145	57	築堤河川	100年
		評価	100年	50年	100年	50年	100年	100年	100年	50年	50年	50年		
	野瀬川	数値	3.8	80	2.5	0.9	50	270	3	27.9	299	3	築堤河川	30年
		評価	30年	30年	50年	30年	50年	50年	30年	50年	50年	30年		
湖北圏域	姉川・高時川	数値	369.4	2400	68.9	88.3	8,630	9,755	306	7.8	1,105	35	築堤河川	100年
		評価	100年	100年	100年	100年	100年	100年	50年	50年	100年	50年		
	長浜新川	数値	16.9	320	12.4	10.8	252	1,418	503	11.5	131	47	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	100年	50年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
	余呉川	数値	65.2	600	2.8	6.0	0	314	122	4.7	52	20	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	30年	50年	50年	30年	50年	50年		
	天野川	数値	111.9	1300	14.6	23.8	140	1,934	417	6.1	81	18	築堤河川	50年
		評価	100年	50年	100年	100年	50年	50年	50年	50年	50年	50年		
大川	数値	19.6	330	0.7	2.4	0	66	3	2.9	27	1	築堤河川	30年	
	評価	50年	50年	30年	50年	30年	30年	30年	30年	50年	30年			
湖西圏域	安曇川	数値	342.3	2100	19.1	2.9	0	2,631	391	65.9	907	135	築堤河川	100年
		評価	100年	100年	100年	50年	30年	100年	50年	100年	100年	100年		
	百瀬川	数値	20.2	340	4.2	6.6	0	456	47	6.4	69	7	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	30年	50年	30年	50年	50年	50年		
	石田川	数値	58.0	690	7.9	7.4	0	816	94	10.7	110	13	築堤河川	50年
		評価	50年	50年	50年	50年	30年	50年	50年	50年	50年	50年		
	鴨川・青井川 八田川	数値	50.0	730	6.2	14.2	0	716	67	4.4	50	5	築堤河川	50年
評価		50年	50年	50年	50年	30年	50年	50年	30年	50年	50年			